



Title	薬学教育6年制における早期体験学習：生命の尊さと医療の関わり
Author(s)	古澤, 忍
Citation	高等教育ジャーナル：高等教育と生涯学習, 17, 95-98
Issue Date	2010-01
DOI	10.14943/J.HighEdu.17.95
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/47994
Type	bulletin (article)
File Information	JHELL17_008.pdf



[Instructions for use](#)

薬学教育 6 年制における早期体験学習 — 生命の尊さと医療の関わり —

古澤 忍*

東北薬科大学 薬学教育センター

Early On-site Training in the Six-year Pharmaceutical Program - How Medical Care Affects Views on the Preciousness of Human Life

Shinobu Furusawa**

Tohoku Pharmaceutical University, Pharmaceutical Education Center

Abstract — The six-year pharmaceutical program was started in April 2006. Its primary purpose is the training of pharmacists who will support medical care. Future pharmacists not only need advanced expertise and skills, but also strong ethical principles and warm humanity. For the new pharmaceutical program, humanism and ethics are very important themes. To strongly motivate students, early on-site training has been recommended as introductory education in the schools of medicine, dentistry, pharmacy, and nursing science. They come to understand the social mission and ethicality of contributing to medical care, and learn about the attitude required of medical personnel by observing various medical/welfare facilities on-site at an early stage after admission. Then they can consider their future courses, and clearly comprehend their reasons to learn. This paper describes the meaning of medical students' on-site care-based training with the backdrop of care for the elderly. We refer to the preciousness of human life, ethics of pharmacists/medical care, and education to nurture empathy, and consider an effective pharmaceutical program.

(Revised on 1 July, 2009)

1. はじめに

2006年4月からスタートした薬学教育 (pharmaceutical education) の6年制は、医療の担い手となる薬剤師養成を第一の目的として設置され、より優れた質の高い薬剤師には、高度の専門知識、技能は勿論のこと、高い倫理性、豊かな人間性が要求されている (川原ら 2007)。最先端の高

度の専門知識を身に付けるにはしっかりした基礎・生命科学の基盤が必須であることはいうまでもないが、医療人としてのヒューマニズム教育 (humanism education)、倫理教育 (ethic education) (日本薬学会編 2005) が6年制教育において重要な課題になっている。

多くの医学部、歯学部、薬学部、看護学部において、導入教育として医療や福祉の現場を体験する早

*) 連絡先 : 981-8558 仙台市青葉区小松島 4-4-1 東北薬科大学 薬学教育センター

***) Correspondence : Pharmaceutical Education Center, Tohoku Pharmaceutical University, Sendai, 981-8558, Japan
e-mail: furusawa@tohoku-pharm.ac.jp

期体験学習 (early exposure) が実施されている (村田ら 2006)。ここでは、新たな薬学教育の一面を考察し、医療大学の例を挙げ、とくに社会的弱者 (患者、高齢者、入所者、障害児・者) の施設を体験することの意義 (教育的効果) について、ヒューマンズ教育や倫理教育 (日本薬学会編 2005) の観点から概説したい。高齢者や障害児 (者) と触れ合い体験することが、いかに患者を理解するのに役立つのか、人間の命の尊さを感じ、思いやりのこころを育む教育について効果的な薬学教育を考えてみたい。

2. 薬学教育 (6 年制) 第三者評価の評価基準

薬学部で薬学教育の充実を図っていくためには、第三者評価の導入により常に教育の質を維持向上する体制作りが重要であるといわれる。いわゆる薬学教育 (6 年制) 第三者評価の評価基準 (平成 19 年度版) によると、その「理念と目標」は、「各大学独自の工夫により、医療人として薬剤師に必要な学識及びその応用能力並びに薬剤師として倫理観と使命感を身につけるための教育・研究の理念と目標が設定され公表されていること」としている。その教育プログラムにおいて、医療人教育の基本的内容のひとつとして、ヒューマンズ教育・医療倫理教育が取り上げられ、「医療人としての薬剤師となることを自覚させ、共感的態度及び人との信頼関係を醸成する態度を身につけさせ、さらにそれを生涯にわたって向上させるための教育が体系的かつ効果的に行われていること」を謳っている。その具体的な内容としては、1) 全学年を通して、医療人として生命に関わる薬学専門家に相応しい行動をとるために必要な知識、技能、及び態度を身につける、2) 医療全般を概観し、薬剤師の倫理観、使命感、職業感を醸成する、3) 医療人として、医療を受ける者、他の医療提供者の心理、立場、環境を理解し、相互の信頼関係を構築するために必要な知識、技能、及び態度を身につけるなど、基準が策定されている。また、薬学教育カリキュラムに関しては、教育課程の構成と教育目標が、薬学モデル・カリキュラムに

適合していることを掲げている。その中のひとつとして、学生の学習意欲が高まるような「早期体験学習」が行われていることが挙げられている。その早期体験学習の観点としては、1) 薬剤師が活躍する現場などを広く見学させていること、2) 学生による発表会、総合討論など、学習効果を高める工夫がなされていることなどが盛り込まれている。

とくに豊かな人間性や高い倫理観、医療人としての教養を育成し、加えて現場で通用する実践力、課題発見能力・問題解決能力などを備えた薬剤師を養成することを目的としている。このように質の高い教育を目指して、様々な観点から教育体制を評価することに重点が置かれている。

3. 生命の尊さと医療倫理

患者の「生と死」を考え、「いのちとどう向き合うか」など、医療人としての姿勢が問われ、生命の尊厳にかかわる問題も議論されている。薬剤師倫理規定の前文で、薬剤師は、医療の担い手の一員として生命・健康の保持増進に寄与する責務を担っており、この責務の根底には生命の畏敬に発する倫理が存在する、と明記されている。薬剤師には、病気や薬物治療に関する知識や技能だけでなく、生命の尊さを認識した、適切な倫理性を有することが求められている。なお、薬剤師の役割 (任務) は、「調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するものとする」と規定されている (薬剤師法第 1 条)。

「医療倫理」(medical ethics) には、1) 患者の権利、2) がんの告知やインフォームド・コンセント、3) 終末期医療、安楽死、尊厳死、脳死、4) 臓器移植や遺伝子医療などの先端医療など、広範な内容の問題が含まれる。新しくスタートした薬学教育 6 年制では、薬剤師の養成にあたって医療倫理の教育が重視されている。越前 (2008) は、問題指向型演習形式 (problem-based learning, PBL) に際しては、教員の倫理観、人生観、死生観を提示することが求められることがあることを指摘し、薬学部の教員に対し医療倫理を積極的に学ぶ必要性を

勧めている。

4. 老人福祉・障害児施設の体験学習で期待される教育効果

介護・福祉を取り巻く社会情勢が変化して行くなか、生命の尊厳死や死に関する教育の充実が求められている。介護・福祉が、どのような職能で、いかなるシステムの下で実施されているのかを理解することは、医療人を目指す者にとって大きな意味がある。

老人福祉・医療の現場での体験学習の必要性が叫ばれ、医科大学では、医学部1年生を対象として老人福祉・医療施設で早期体験学習（実習）を実施している。この実習では、2～5日間、生活を共にすることから、どれだけ他者と受容的に接し意思を伝達しあうことができるか、技能の実践の場での自己確認的な意味など、到達目標が設定されている。順天堂大学医学部・医学生からの実習後のアンケートによると、到達目標である「他者のために働く」、「老人介護の実際を知る」、「老人関連施設で働く人々を知り医師の役割を知る」、「人間存在に触れる」に関しては、ほとんどの学生が目標を達成していたことが明らかになっている（月澤ら 2004）。この早期体験実習を通じて高齢者に対する認識が変わり、人を大切に想うことを知り、そして他者のために働き、感謝される喜びを感じ、医師を志す彼らにとって貴重な体験になっていることが示唆されている。

看護学部でも、特別養護老人ホーム、老人病院、老人保健施設を中心とする老人関連施設といった多様な施設で早期体験実習が行われている（塚田ら 1998, 柳ら 2002）。この実習は、専門教育が開始される前に、心身障害者や高齢者に接し、介護等の体験を通じて入学動機を再確認し、これから4年間にわたる看護専門教育を受けるにあたり学習意欲の維持・向上および将来の医療人にふさわしい人格の養成と意識の確立に役立てることを目的としている。

北海道薬科大学でも2年次を対象に、介護・養護施設等で早期体験学習（5日間）が行われ、入所

者の方々とのコミュニケーション、車椅子介助、食事介助など施設に応じた様々な学習を北海道全域で実施している。この体験を通して、医療従事者として一番大切なものを気付かせてくれたこと、介護の大変さやチームケアの重要性を知ることができたことなど、医療人としての倫理観を養う上で非常に教育効果があることが示唆されている。このように、高齢者社会を迎えた今、医療を目指す学生が老人福祉・医療の現場で介護の実際を体験することの意義は大きい。

本学でも、介護・医療施設のほか、養護学校・盲・ろう学校を、早期体験学習として見学体験を実施している。その目的は、最も大切な命にかかわることを認識させ、生と死の意味を理解しそれに派生する倫理的な問題を学び、医療に携わる人間として身に付けなければならない生命観、倫理観、使命感を養うほか、人間性を育成することにある。いわば介護、福祉の体験学習の目指すところは、学生が社会的弱者の気持ちや不自由さを共有、共感し、それを少しでも和らげ、これらの人々を暖かい目で見守り、いたわり、少しでも心を通わせることにある。

ある養護学校関係の本の中に、「私たちの命は、心と体がひとつになってできている。心に太陽を抱き、明るく生きていくなれば、たとえ手がなくとも、足はなくとも、目は見えなくとも、耳は聞こえなくとも、今ある機能を生かして音楽、運動、絵画、ダンス、書、囲碁、将棋等の趣味を楽しみながら、自分の人生をしっかりと歩いていくことができる」との障害児の記述（現代教師養成研究会編 2006）があり、そこにはまさに人間としての尊厳が描かれている。このことから、養護学校の生徒がハンディキャップを背負いながらも、一人ひとりが可能性を信じて明るく生きている様子がうかがい知ることができ、その生き方に深い感銘を受ける。

人は、誰もがいずれ死を迎え、最終的には皆、同じ道を歩むことは避けて通れない運命にある。しかし、高齢者の方は、人間としての尊厳を持ちながら、与えられた命を懸命になって生きている。障害者や高齢者の問題は、人間としての問題であり、健常者の問題でもある。本学の学生の感想文からみて、施設の見学体験を通し自分も相手も同じ人間であるということ認識し、人間としての存在の重さを感じ

ながら社会的弱者（患者，障害者，高齢者）に対して「心の痛みがわかる」人間的な共感やいたわりの心が芽生えたように思われる。

5. おわりに

医療における教育の目標のひとつは、多角的な視点，広い視野を持って他者を理解し，他者と向き合える人間を育成することにある。患者の立場になって考え，それぞれの患者を理解する上でも，様々な老人福祉・医療関係施設などでの体験は，これからの勉学への大きな動議付けとなっていくものと期待される。入学後の早い時期に，医療に貢献する社会的使命・倫理を理解し，医療を志す者の心構えやチーム医療を学び，そして将来の進路を考える意味で，早期体験学習は導入教育として非常に重要な役割を担っている。「いのちを考える」，「患者のこころを読む」ことが，薬学部においても，大切な課題となっており，この醸成が「人の痛みがわかる」，「思いやりのある」薬剤師の誕生につながっていくと考える。

参考文献

越前宏俊 (2008)，「薬学教育における医療倫理教

- 育」，『医薬ジャーナル』 44， 56-59
- 川原 章，関野秀人 (2007)，「薬学教育改革の現状と展望」，『薬学雑誌』 127， 973-976
- 塚田トキエ，馬竹美穂，落合 宏 (1998)，「富山医科薬科大学医学部看護学科早期体験実習に対する学生の反応」，『富山医科薬科大学看護学会誌』 1， 79-87
- 月澤美代子，篠原厚子，村山 尚，宮本孝昌，染谷明正，宮平 靖，川越礼子，宮川桃子，石龍徳，江崎淳二，堀口逸子，黒田博子，岡田隆夫，檀原 高，酒井シヅ，木南英紀 (2004)，「順天堂大学医学部 1 年生における早期体験学習としての老人福祉・医療施設実習の導入と教育評価」，『順天堂医学』 49， 492-501
- 日本薬学会編 (2005)，『ヒューマニズム・薬学入門』，東京化学同人
- 現代教師養成研究会編 (2006)，『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック 改訂版』，大修館書店
- 村田正弘，飯田耕太郎，神村英利，田口忠緒，辻本利雄，早瀬幸俊，藤田芳一 (2006)，『早期体験学習ガイドブック』，ネオメディカル
- 柳 久子，戸村成男，森 淑江，江守陽子，紙屋克子 (2002)，「医療・福祉現場における早期体験実習 (early exposure) : 筑波大学医学専門学群における経験」，『医学教育』 33， 43-49